

「2017年インドネシア大学スプリングスクール 参加報告書」

京都大学 経済学部 4年 中尾梨奈

＜学習成果＞

・初級インドネシア語の習得

40時間の初級インドネシア語講義により、基本的なインドネシア語を習得することができた。アラビア語・ヒンディー語・マレー語などに由来する語が9割を占めると言われ、比較的近代的な概念では英語に由来する語も多く散見されるインドネシア語から、インドネシアの多様性を感じることもできた。

・日本の再認識

インドネシア滞在を通じて、世界における日本の立ち位置を再認識することができた。例えばインドネシア大学の学生からは（日本学科の学生との交流が主だったからかもしれないが）日本企業で働くことへの憧れを強く感じ、日本が依然として先進的地位にあることを認識した。一方で韓国や中国、アメリカの存在感も大きく、今後は二国間だけで物事を語るのは難しく、マルチな協力と影響を考慮しなければならないのではないかと考えさせられた。

＜プログラム内容＞

①インドネシア語学習

計40時間のインドネシア語授業があった。授業は時折英語の補足が入りつつも基本的に簡単なインドネシア語で、配布された教科書に沿って進行していた。全体として、ライティングやリーディングよりも、スピーキングと実践を重視した内容であった。

②文化体験

1週間目にはガムラン、アルンバ、バティックの体験が行われた。実際に手を動かして演奏・作業することに重きが置かれていた。

③インドネシア大学の他の授業の参観

2週目は“Japanese Drama”, “Japanese Discourse Analysis”, “Basic Japanese”の授業をインドネシア大学の学生に混ざって受講した。これらの授業はインドネシア語で進められた。

④日本学科の学生との交流

2人1組（日本側1人&インドネシア側1人）がペアになってそれぞれの興味に従った内容について調査し、最終日にプレゼンテーションを行った。またペアの学生及び他の日本学科生には昼食時や休日に同伴してくれる学生も多く、有意義な交流を行うことができた。

＜海外での経験＞

イスラームに対する理解の深耕

イスラームの思想・習慣との接触が最も印象的な経験である。このスプリングスクールに参加する以前、私はイスラームに対し多くの日本人同様「豚肉とアルコールは摂取禁止、女性はヒジャブを被り肌を隠さねばならない」程度の知識しかなかった。しかしインドネシアでのイスラームは私の想像以上に自由度が高く、お祈りの頻度や服装がどのような信念を持っているかによって異なるということを今回のスプリングスクールで実感を持って伺い知ることができた。